

氏名	津 田 佳 穂
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 号
学位授与の日付	平成16年12月31日
学位授与の要件	医学研究科社会医学系衛生学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Work-Related Factors Associated with Visiting a Doctor for a Medical Diagnosis after a Worksite Screening for Diabetes Mellitus in Japanese Male Employees (日本人男性勤労者における職域での糖尿病スクリーニング後の 精密検査受診行動と関係する職業性要因)
論文審査委員	教授 吉良 尚平 教授 槇野 博史 助教授 氏家 寛

学位論文内容の要旨

日本人男性勤労者の、職域健診後の血糖精密検査受診行動に影響する職業性要因を調査した。研究参加者は、健康診断の結果配布から2ヵ月後に自記式質問票を受け取った。血糖スクリーニング検査で陽性であった35歳以上64歳以下の中小企業正規従業員213人を解析の対象とした。平均観察期間47.5日間で42%のみが血糖スクリーニング後の精密検査を受診していた。コックス比例ハザードモデルを用いて職域健診結果受領から精密検査受診までの日数を従属変数とする解析を行った。休暇がとりやすいと感じた人はとりにくいとと感じた人に比べて精密検査を受診しやすかった(ハザード比1.94、95%信頼区間0.85-4.42、傾向性の検定 $p=0.05$)。さらに仕事のコントロールが高い人は低い人に比べて受診しやすい傾向があった(ハザード比1.80、95%信頼区間0.94-3.45、傾向性の検定 $p=0.08$)。週61時間以上就業している人は、過労働時間41時間以上60時間以下の人に比べて精密検査を受診しにくかった(ハザード比0.41、95%信頼区間0.17-0.98)。仕事の自由度を高め、長時間労働を避けることが男性勤労者の糖尿病スクリーニングの有効性を改善する上で重要と考えられた。

論文審査結果の要旨

213人の男性労働者(35~64歳)を対象に、職域の定期健康診断項目である血糖スクリーニングの結果に基づいた精密検査受診行動に影響する職業性要因を調べた研究である。調査対象の精密検査受診率は42.3%であり、精密検査受診に影響する職業性要因は、休暇が取りやすい、仕事のコントロールが高い、長時間労働の制限、などを多変量解析の結果から明らかにするなど、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。